

判例第 29/2019/AL 号

「財産奪取」罪における強取された財産について

2019 年 8 月 22 日に最高人民裁判所裁判官評議会により承認され、2019 年 9 月 9 日付最高人民裁判所長官の決定第 293/QĐ-CA 号により公表された。

判例の源：

1993 年生まれの被告人レ・スアン・Q に対する「財産奪取」訴訟事件に関する最高人民裁判所裁判官評議会の 2018 年 10 月 15 日付監督審決定第 20/2018/HS-GĐT 号。

判例内容の位置：

「裁判所の認定」の部分の第 1 段落。

判例内容の概要：

- 判例の状況：

被告人は、被害者への支払い義務を負う金額を支払わないことを目的に暴力を振るい被害者を攻撃する行為を行い、被害者を抵抗不可能な状態に陥れた。

- 法的解決策：

この場合、被告人は「財産奪取」罪に関する刑事責任を問われる必要がある。

判例に関連する法律規定：

1999 年刑法典第 133 条（2015 年刑法典第 168 条に対応する）。

判例のキーワード：

「財産奪取」、「強取された財産」、「被告人が支払うべき金額」。

訴訟事件の内容：

2015 年 1 月 19 日 22 時頃、レ・スアン・Q、チャン・スアン・L、グエン・ヴァン・L、チュオン・シー・T、ハ・ティ・トゥ・H と各対象者 H1、ビン（身元不明）は、ダナン市 L 区 H 坊の Mr グエン・タイン・H が所有するカラオケ店 M の 203 号室に歌いに行った。同日 23 時 30 分頃に他の者は先に帰り、Q とグエン・ヴァン・L は会計のため残った。Mr グエン・タイン・H に店の管理を任せられた Mr ヴォー・ミン・T は、203 号室を確認して 408,000

ドンの請求書を書いた。レ・スアン・Q は Mr ヴォー・ミン・T に 208,000 ドンと携帯電話 1 台を渡し、不足金 200,000 ドンの支払いと携帯電話の取戻しのために翌日戻ると言ったが、Mr ヴォー・ミン・T が承認しなかった。その時、チュオン・シー・T が Q とグエン・ヴァン・L を乗せるためにバイクを運転して戻ってきたので、Q はオーナーに、Q がお金を取りに帰ってグエン・ヴァン・L とチュオン・シー・T が残ると言った。Q はバイクを運転してチャン・スアン・L と H1 に会いに行き、Q はチャン・スアン・L に不足金の保証としてチャン・スアン・L の電話をカラオケ店に持って行けと言ったが、チャン・スアン・L は同意しなかった。Q は、チャン・スアン・L と H1 に、グエン・ヴァン・L とチュオン・シー・T を逃がして未払いの 200,000 ドンを踏み倒すために、カラオケ店 M に戻って店員を追い払って殴れと言った。チャン・スアン・L と H1 は同意した。

その後、レ・スアン・Q は、ダナン市 L 区 H 坊の集合住宅 I の近くの藪までチャン・スアン・L と H1 を乗せ、Q が以前隠しておいた長さ約 60 センチの自作のなた 2 本の中に入れて取ってくるようチャン・スアン・L と H1 に指示した。チャン・スアン・L と H1 はなたを 1 本ずつ握ってバイクでカラオケ店 M に戻った。

2015 年 1 月 20 日 0 時頃、レ・スアン・Q は運転してきたバイクをカラオケ店 M の前に止め、バイクに座って待ち、H1 とチャン・スアン・L はなたを持って店に突入した。H1 とチャン・スアン・L が突入したことを見て、グエン・ヴァン・L とチュオン・シー・T は家に逃げ帰った。チャン・スアン・L と H1 は、なたを握って店の店員たちを追いかけ、Mr デイン・ドゥック・T、Mr ヴォー・ミン・T は走ってトイレに入り、Mr グエン・タイン・H は走って 2 階に上がってドアを閉め、店の警備員 Mr ファン・タン・T は走って道路に出て隠れた。追いかけていたチャン・スアン・L は、カウンターで止まり、引き出しに置いてあった Hanet ブランドの黒いタブレット 2 台を発見した。チャン・スアン・L はタブレット 2 台を取って服に隠して外に出て、H1 も外に出て、レ・スアン・Q が運転するバイクに乗って逃げた。途中で H1 とチャン・スアン・L は 2 本のなたをグエン・シン・S 通りの路傍に捨てた（物証回収できず）。3 人が集合住宅 F に着いた時、チャン・スアン・L はタブレット 2 台を取り出してカラオケ店 M で取ったと言ったところ、Q は戻すよう提案したが、チャン・スアン・L は「今、返したら、警察に捕まるのが怖い」と言い、レ・スアン・Q はそれを聞いて、「俺は関係ない」と言って家に帰って眠った。翌朝、レ・スアン・Q はバイクをチャン・スアン・L に返し、逃げた。タブレット 2 台について、チャン・スアン・L は身元不明の男性に売り、1,100,000 ドンを貰って余さず使った。このタブレット 2 台は回収できなかった。

財産鑑定評議会の 2015 年 5 月 28 日付結論第 33/KL-HĐĐG 号によると、Hanet 10S ブランドの中古タブレット 2 台の残存価額は 12,000,000 ドンである。

捜査過程で Ms ファン・ティ・C (チャン・スアン・L の母) は Mr グエン・ミン・T に 7,000,000 ドンを賠償した。Mr グエン・ミン・T は金員を受領し、追加賠償を要求しなかった。

2015 年 12 月 19 日付第一審刑事判決第 77/2015/HSST 号で、ダナン市リエンチエウ区人民裁判所は、1999 年刑法典第 133 条第 2 項第 d 号、第 46 条第 1 項第 b 号、第 p 号及び第 2 項、第 48 条第 1 項第 g 号及び第 n 号を適用し、レ・スアン・Q を「財産奪取」罪で懲役 7 (七) 年に処した。

また、第一審級裁判所はチャン・スアン・L を「財産奪取」罪で懲役 6 年に処し、訴訟費用に関する決定を行い、法律規定による控訴権について宣した。

2015 年 12 月 21 日にレ・スアン・Q は「財産奪取」罪を犯さなかったとの内容で控訴した。チャン・スアン・L は減刑を求めて控訴した。

2016 年 4 月 20 日付控訴審刑事判決第 78/2016/HSPT 号でダナン市人民裁判所は、2003 年刑事訴訟法第 248 条第 2 項第 b 号、第 249 条第 1 項第 c 号に基づき、第一審判決を以下の通り修正すると決定した。刑法典第 314 条第 1 項、第 46 条第 1 項第 p 号、第 48 条第 1 項第 g 号を適用し、レ・スアン・Q を「犯罪を通報しない」罪に関する懲役 3 (三) 年に処す。(また、控訴審級裁判所はチャン・スアン・L も「財産奪取」罪について懲役 5 年に減刑した。)

2017 年 4 月 11 日付決定第 26/2017/KN-HS-VC2 号でダナン高等人民検察院長官は、上記控訴審刑事判決に対する監督審異議を唱え、ダナン高等人民裁判所に、再捜査を行うために控訴審判決と第一審判決のレ・スアン・Q の刑罰の部分を取り消すように依頼した。2017 年 7 月 27 日付決定第 61/2017/QĐ-VC2 号でダナン高等人民検察院長官は、ダナン高等人民裁判所に控訴審判決のレ・スアン・Q に対する刑罰と罪名の部分を取り消し控訴審の再審理を行うよう依頼する方向で 2017 年 4 月 11 日付異議決定第 26/2017/KN-HS-VC2 号を変更した。

2017 年 9 月 18 日付監督審決定第 38/2017/HS-GĐT 号でダナン高等人民裁判所裁判官委員会は、控訴審刑事判決のレ・スアン・Q に対する罪名と刑罰の部分を取り消して控訴審の再審理を行うと決定した。

2018 年 5 月 22 日付決定第 16/2018/KN-HS 号で最高人民裁判所長官は、ダナン高等人民裁判所裁判官委員会の 2017 年 9 月 18 日付監督審決定第 38/2017/HS-GĐT 号に対する異議を唱え、最高人民裁判所参審員評議会に、監督審審理を行って上記監督審決定を取り消し、ダナ

ン市人民裁判所の 2016 年 4 月 20 日付控訴審刑事判決第 78/2016/HSPT 号のレ・スアン・Q の刑事責任の部分を変更するよう依頼した。

監督審法廷で最高人民検察院代表者は、最高人民裁判所長官の監督審異議決定と意見が一致し、最高人民裁判所参審員評議会にダナン高等人民裁判所裁判官委員会の監督審決定を取り消す決定を行い、監督審の再審理を行うよう依頼した。

裁判所の認定：

[1] レ・スアン・Q の証言は、訴訟事件の事実関係についてチャン・スアン・L の証言と一致し、Mr ヴォー・ミン・T、Mr グエン・タイン・H（カラオケ店 M の店員とオーナー）の証言と一致する。以下のことを確定する根拠がある。相談して意見を統一した後、2015 年 1 月 20 日 0 時頃、レ・スアン・Q は、なた 2 本を持ったチャン・スアン・L と H1 と一緒にカラオケ店 M に行った。Q は外に立ち、チャン・スアン・L と H1 は未払いのカラオケサービス料 200,000 ドンを踏み倒すためにグエン・ヴァン・L とトゥルオン・シー・T を逃がそうと、なたを握って店員を追いかけた。ということは、各被告人が被害者への支払い義務を負う金額を踏み倒す目的で共犯者を逃がすために被害者に暴力を振るって攻撃する行為を行ったことは、十分に「財産奪取」罪を構成する要素を有する。

[2] レ・スアン・Q は直接なたを握ってカラオケ店 M の店員たちを追いかけなかったが、Q は共謀して凶器を準備し、犯罪行為を行うためにカラオケ店 M までチャン・スアン・L と H1 を乗せたので、Q は金額 200,000 ドンに対する財産奪取行為についてチャン・スアン・L と H1 の共犯者である。第一審級裁判所が 1999 年刑法典第 133 条第 2 項第 d 号（危険な武器、手段、その他手口の使用）を適用して「財産奪取」罪でレ・スアン・Q を処したことは、法的に正確である。

[3] 第一審審理の後、レ・スアン・Q は「財産奪取」罪を犯さなかったと控訴した。控訴審級裁判所は Q とチャン・スアン・L が金額 200,000 ドンに対する「財産奪取」罪を犯さなかったと認定したが、Q が「財産奪取」罪を犯さなかったと宣して Q に対する審理を停止せず、Q にチャン・スアン・L のタブレット 2 台の奪取行為に対する「犯罪を通報しない」罪について判決を出した。このように、控訴審級裁判所が Q に捜査、起訴されていない行為についての判決を出したことは、審理の制限に関する 2003 刑事訴訟法第 196 条の規定に違反する。

[4] ダナン高等人民裁判所裁判官委員会の監督審決定は、レ・スアン・Q が「犯罪を通報しない」罪を犯さなかったと確定し、そこから、控訴審級裁判所が Q にこの罪についての判決を出したことは根拠がなく、罪名と刑罰の部分を取り消し、控訴審の再審理を行う必要があると認定した。しかし、監督審決定が控訴審級裁判所は何の罪についてレ・スアン・Q

を審理せねばならないのか方向を定めず、第一審判決の決定に根拠があるか否かを認定しなかったことは、控訴審級裁判所の再審理の際に困難をもたらした。

[5] レ・スアン・Q は 2015 年 9 月 30 日に勾留され、2016 年 5 月 31 日に服役のためにビンディエン刑務所に行った。服役期間中ビンディエン刑務所とレ・スアン・Q は、ダナン高等人民検察院長官の監督審異議とダナン高等人民裁判所裁判官委員会の監督審決定を受領しなかった。監督審異議と監督審決定の「送付先」の部分には、刑務所と Q に送付すると表記されていない。そのため、ビンディエン刑務所は Q の服役期間を短縮し、2018 年 2 月 10 日に Q は懲役 3 年の服役を終えた。このように、ダナン高等人民裁判所裁判官委員会は監督審決定の交付に関する 2003 年刑事訴訟法第 288 条の規定を正しく実施しなかった。

[6] レ・スアン・Q に対する刑罰の程度について：第一審級裁判所がレ・スアン・Q に「財産奪取」罪について判決を出したことは法的に正確であるが、Q をこの罪で懲役 7 年に処したことは、Q の犯罪行為の性質と危険度に比べて重い。控訴審の再審理の時、ダナン市人民裁判所は Q の犯罪行為を全面的、客観的に検討、評価すると同時に、Q が 2016 年 4 月 20 日付控訴審判決第 78/2016/HSPT 号の決定による懲役 3 年の服役を終えたことを考慮して、レ・スアン・Q に対して相応しい刑罰の程度を決める必要があった。

上記を踏まえ、

決定：

2015 年刑事訴訟法第 382 条、第 388 条第 3 項、第 391 条に基づき、

1. ダナン高等人民裁判所裁判官委員会の 2017 年 9 月 18 日付監督審決定第 38/2017/HS-GDT 号とダナン市人民裁判所の 2016 年 4 月 20 日付控訴審刑事判決第 78/2016/HSPT 号のレ・スアン・Q に対する刑事責任の部分を取り消す。
2. 法律規定による控訴審の再審理を行うために、ダナン市人民裁判所に訴訟書類を渡す。

判例内容

「[1] ...各被告人が被害者への支払い義務を負う金額を踏み倒す目的で共犯者を逃がすために被害者に暴力を振るって攻撃する行為を行ったことは、十分に「財産奪取」罪を構成する要素を有する」。